

会 議 録

会 議 名	令和元年度第1回野田市保健医療問題審議会
議題及び議題毎の 公開又は非公開の別	第2次野田市食育推進計画の策定について（公開）
日 時	令和元年8月1日（木） 午後1時30分から午後2時45分まで
場 所	保健センター3階大会議室
出席委員氏名	金本 秀之、門倉 正樹、小張 力、種村 伴子、 石塚 勝巳、清岡 智、渡辺 浩之、石井 徳子、 太田 央子、張替 洋子、太田 雅康
欠席委員氏名	鈴木 隆一、秋田 茂、松本 良二、高瀬 峰子
事務局等	鈴木 有（市長）、直井 誠（保健福祉部長）、中代 英夫、（保健センター長）、平野 健一（農政課長）、大月 聡（高齢者支援課長）、鈴木 和則（保育課長）、川野 尚武（生涯学習課長）、岡田 勇貴（保健センター長補佐）、秋鹿 弥由紀（保健センター健康増進係長）、中山 知子（保健センター母子保健係長）、大杉 美佐絵（学校教育課保健給食係長）、木村 文子（保健センター主任技師）、近藤のぞみ（保健センター主任技師）、北原 千鶴（保育課主任技師）
傍 聴 者	無し
<p>令和元年度第1回野田市保健医療問題審議会の会議結果（概要）は、次のとおりである。</p> <p>岡田保健センター長補佐 定刻前だが委員全員揃ったので、令和元年度第1回野田市保健医療問題審議会を開催する。なお、会議録作成のため、録音することに了解をお願いする。本審議会の公開、傍聴については、原則公開とされていること</p>	

を報告する。次に、資料の確認として、事前に委員に配布した資料、座席表、委員名簿である。4月1日の人事異動に伴う委員の交代について報告する。議事進行については、野田市保健医療問題審議会条例第6条第1項の規定により、会長にお願いする。

(会長挨拶)

金本会長 委員定数15人のところ11人の出席があり、委員の半数以上が出席されているので、野田市保健医療問題審議会条例第6条第2項の規定により、本審議会は成立している。本日、傍聴の申込みはなかったが、会議の途中に傍聴の希望があった場合には、5人以内で入室を認めることとする。始めに、鈴木市長から挨拶をお願いする。

(市長挨拶)

金本会長 「第2次野田市食育推進計画の策定について」を議題とする。市長から、第2次野田市食育推進計画の策定について、本審議会が諮問を受けることとなっているので、これより市長から諮問を受ける。

鈴木市長 第2次野田市食育推進計画の策定について、野田市保健医療問題審議会条例第2条の規定に基づき、別紙諮問要旨のとおり諮問する。

金本会長 ただ今、市長から第2次野田市食育推進計画の策定について諮問を受けた。事務局は、各委員に諮問書の写しを配布し、本諮問に係る要旨について説明をお願いする。

中代センター長 (諮問要旨について説明する。)

金本会長 答申までの間、委員には御審議をお願いする。なお、市長は、公務のためここで退席する。それでは、第2次野田市食育推進計画の策定について、事務局から説明を求める。

中代センター長 (第2次野田市食育推進計画の策定について説明する。)

金本会長 ただ今の説明に対する質疑に入る。質問や意見があれば、お願いする。

石塚委員 非常にいろんな努力をしている様子は分かるが、結果的には目標が達成されず成果が上がっていない状況である。評価を見ると、参加した人たちは非常に内容が良かったという評価をしている。ただ参加する人を増やすのはなかなか難しい。その方法としていろんなことを考えなければならないが、その項目につ

いて専門的でなくていいので、素人の撮ったDVDを残しておいたらどうだろうか。時間の制約で出られない人が当然いるわけなので、そういうDVDをいつでも貸し出せるようにするとか、図書館に置いて見たい人がいつでも見られるようにするとか、経験のない人を増やす工夫が必要ではないか。

中代センター長 今までそのようなことを行っていなかった。仮に行うとしても、専門の方が撮ったDVDの映像を流したことはあるが、一般の方が参加して、一般の方がどういう反応をしているかということで、そのようなDVDを貸し出すのは面白いと思うので、計画に盛り込めていくような方向で考えられれば入れていきたい。

金本会長 御検討よろしく願います。

清岡委員 資料1の1番から100番までいろんな対策に取り組んでいることに敬意を表するものの、資料4を見る限り、努力したのにこんな結果だったのは大変残念に思うが、何でこうなったのかということが一番大きな問題であり、そこをどう分析するのかだとは思う。いろんな施策をしても、資料1の4ページの65番、骨太教室で啓蒙活動をしたということで、大変結構な取組だと思うが、ここに参加している人は、本当は取り組まなくてもいいような人が集まっていて、参加しない人をどう捉まえて、どう啓蒙するかがもっと大事なことだと思う。なぜ成功しなかったのかという分析を含めて、待ちの姿勢で、やっている、来てもらうではなくて、違った方策を立てなければ、また頑張って100ぐらいの取組をしても、残念な結果になってしまうので、そうならないようにしなければならないと思う。

金本会長 アンケートの結果をどう分析して、実際フィードバックして、次に変えるか。そこを是非、今回は重点的に考えていただければと思う。私から聴きたいのだが、資料4の地産地消に貢献している人の増加、直売所における1日平均利用者数で、直売所というのは、どこを言われているか。

平野課長 船形地先に市が公設民営で設置したゆめめぐり野田という直売所である。

金本会長 すごくいいことだと思う。私は毎日そこを通るが、場所的に市民が本当に利用できる場所なのか非常に疑問を持っている。それに関してはいかがか。

平野課長 平成20年6月に直売所が出来たが、当初三つほど候補地があり、沿道で市街地より農家に近い3か所を選び、そのうちの一つ、今の場所に作った経緯がある。結果として、ちょっと遠いのではないか、駅の近くが良かったのではないかという話があったが、農家に近い方がより農産物が集まって、また、当時の直売所ブームがあって、目的地として設定していただける状況になり、好調には推移していた。現状として、オープンから10年経過しているので、店舗型の小売店としては、多少のテコ入れが必要な時期に来ていると感じている。

金本会長 若い子連れのお母さんが、あそこまで来られるのかという実感がある。御検討いただきたい。

石塚委員 売り場を増やすのであれば、スーパーに農産物を直接売っているコーナーに、ゆめめぐりも一緒に出すという手もあるのではないか。そういうことを支援するのはどうか。

平野課長 ゆめめぐりは公設民営で、箱を貸していて、中身の運営を農家が主体となった農事組合法人をお願いしている状況で、野田市の産品を売り込むというより、アンテナショップという形で市民と野田市の農業の交流の一番の最前線基地として考えている。また、御意見があった件で、スーパーにここ5年ほど直売コーナーがたくさん増えて、そういった意味では、野田市産の農産物に触れる機会は、ゆめめぐりに行かなくてもという部分がかかなり出てきていると感じている。

金本会長 皆さんで知恵を出していただきたい。ほかにいかがか。

張替委員 食生活改善推進員の活動として、一般の方を対象に健康づくりということでやっているが、集まる人が毎回同じで、そのことが心配である。一回当たり15人から20人を目安として人を集めるようにしているが、新しい人がどれだけ来るかという点、15人くらいが同じ人で、5人くらい新しい人が来る状況である。また、参加者が集まらないこともあるので、推進員が前に参加した方に電話をして参加をお願いしている。そんなことの繰り返しである。この間、親子の食育教室を開催したが、年に2回から3回、夏休みに行うが、昨年来られた人はいるのかと聴くと、半数以上が昨年のリピーターである。野田市の事業が特定の人のものになってしまう。私としては、これでは駄目だと思っいろいろ考えたが、どうしたらいいかということで、検診で待っている人たちに、私たち

が発行している食生活改善推進員だよりを見てもらったり、ここに来られるような人たちを何人か集められないかと考えたりしている。一番のネックは、来てい
る人や参加している人は同じであるということで、これでは野田市全体で広まっ
てはいかないと思う。食生活改善推進員の活動は40年くらい続いているが、知
名度が全くないので、地産地消ということで市の農政課や農協と協力しながら、
私たちも知識を取り込んでいる。栄養士たちが減塩や良いテーマでやってもらっ
ても、同じような人ばかり集めていては、何も発展がないのではという気がして
いる。

金本会長 特定健診も同じで、意識のある人たちは積極的に来るが、そうじゃない
人たちは来ない。そういう人たちをどうやって引き上げるかが、我々の知恵を出
すことと行政も一緒になって考えていかないと、これは前に進まないと思う。是
非そういう掘り起こしをやっていきたい。

太田央子委員 学校給食のことで、幼稚園で様々な食べ物への興味や関心を持ち、
進んで食べようとする気持ちが育つように指導している中で、学校給食のアンケ
ートで、嫌いなものがあるという割合がかなり多いのにびっくりした。食べても
らうためのメニューの工夫とか、全ての野田市の学校が同じメニューで同じよう
に出してこういう結果だったのかを教えてほしい。

大杉係長 野田市の学校給食では、単独調理校が18校と二つのセンターがあり、
それぞれ施設ごとに栄養士がいて別の献立になっている。野菜嫌いの子に少しで
も野菜を好きになってもらえるように、農業体験やそれを使った調理実習、学校
給食のメニューの考案をしてもらったり、いろいろな取組を通してその活動と給
食の献立がリンクできるような献立を提供しながら、各校独自の献立で行って
いる。それから、農業体験や収穫体験、収穫した枝豆のさや取り、とうもろこしの
皮むきとか低学年でもできるような作業を通じて、給食に採りたての産直野菜を
提供するなどの取組を行っている。

金本会長 各校違うということか。

大杉係長 はい。

太田央子委員 嫌いなものがあるというアンケート結果で、かなり割合が高いの
で、どのように変えていくとか、メニューの工夫とか、子供たちに食べてもら

工夫を今後していく予定があるのかを教えてください。

大杉係長 嫌いなものがあるのは当然だと思うが、味覚も発達していくので、給食の時間としては、一口は必ず食べて、自分が食べきれぬ量まで調整したりして達成感を感じながら、子供が食事を楽しめるように給食時間を作っていくような指導をしている。それから、メニューの工夫については、嫌いな野菜でもおいしく食べられるように、各栄養士がそれぞれ工夫して献立を作成している。

太田央子委員 メニューが別々ということで、野田市全体が同じメニューにはならないのか。学校ごとに任せているということか。

大杉係長 栄養士部会を通じて情報交換を行っている。共通メニューで行う行事食もある。子供たちの活動と給食を活かすような取組ができることが、各校ごとに献立を立てられる利点があるので、そういったことを大事にしている。

金本会長 是非このデータを分析して、次につなげていけるようにしていくことが大切である。

清岡委員 資料2の22ページで、BMI 25以上の肥満者の増加ということで、女性の割合が大幅に増加し、学齢期の子供たちも肥満傾向にある。今回の食育のことだけではなくて活動量のことに関わってくるが、女性の肥満についてこれだけ悪化するのかと目を疑ってしまう。肥満は病気ではなくて、いずれ生活習慣病を引き起こす可能性があるため、この辺の対策をしっかりとる必要がある。

金本会長 大変な問題になると思うので、うまく是正できるようにしていくことが重要である。ほかに質問や意見がないので、出された意見を基に、事務局で計画の素案を作成していただき、次回の会議で御審議をお願いしたい。本日の議事は全て終了したが、事務局から何かあるか。

中代センター長 次回の審議会については、10月下旬を予定している。審議の内容については、パブリック・コメント手続に向けて、素案の審議をお願いしたい。次回の審議会の日程について、決まり次第、連絡する。

金本会長 以上で令和元年度第1回野田市保健医療問題審議会を終了する。